

Green Brave

#52 埼玉 GB GR Supra GT4

2024 年 4 月 20 日 (土)

BRIDGESTONE

Super Taikyu

Japanese Endurance Race

ENEOS

ENEOS スーパー耐久シリーズ 2024 Empowered by BRIDGESTONE

第 1 戦 SUGO スーパー耐久 4 時間レース スポーツランド SUGO (宮城県村田町)

■■■■ 日産 Z とのマッチレースを制し逆転優勝 ■■■■

スーパー耐久の 2024 年シーズンが SUGO で開幕。埼玉 Green Brave は GR Supra GT4 で 2 年連続のチャンピオンを狙います。ドライバーはジェントルマンの山崎選手と GB ドライバーの吉田選手、服部選手、野中選手の 4 人。ST-Z クラスのエントリーは 11 台です。

土曜日の天候は晴。開幕戦は予選と決勝が 1 日で行われる 1DAY レースです。ノックアウト制が採用された公式予選は 8 時 25 分から行われ、山崎選手が Q1 に出場。上位 6 位までに入れば Q2A 組（上位組）に進出となります。山崎選手は 3 周目にアタックを行い、1 分 26 秒 693 をマーク。堂々の 2 位で予選を終え、Q2A 組に進出しました。Q2A 組予選は赤旗中断を挟んで行われ、吉田選手がコースイン。3 周目に 1 分 25 秒 530 をマークし、2 位で予選を終了。#26Z に次ぐ、フロントロウからスタートすることになりました。C、D ドライバーの合同予選は、野中選手が 1 分 27 秒 449 をマーク。2 位につけました。

決勝は予選終了後、約 3 時間後にスタート。レース時間は 4 時間です。チームはスタートドライバーに吉田選手を起用。野中選手、山崎選手とつなぎ、2 回のピットイン義務を消化します。服部選手はピットに待機し、ドライバーへ指示を送ります。吉田選手は 2 位をキープして 1 コーナーへ。スタート直後から予選 1 位の #26Z が逃げますが、吉田選手はタイヤを温存する必要があるため、自分のペースを守って走行します。後方では #25Z が 3 位に上がりますが、吉田選手はしっかりディフェンスしながら周回を重ねます。3 台の位置関係は変わらないまま、約 1 時間半が経過。56 周目の終わりに吉田選手と #25Z がピットイン。吉田選手から野中選手に交代し、給油のみの短い作業でピットアウトします。

翌周にトップの #26Z もピットに入ったため、野中選手はトップに浮上。実質 2 位の #26Z に対して 17 秒のマージンを築いており、タイヤ無交換とは思えない良好なペースでリードを広げます。63 周目の終わりには #22 ケイマンがピットに入ったため、野中選手、#26Z、#25Z というトップ 3 に。2 台の Z はタイヤを交換していますが、野中選手は山崎選手に十分なリードを渡すためにプッシュを続けます。#25Z がトラブルとペナルティにより後退したため、トップ争いは野中選手と #26Z に絞られ、レースは後半戦へ。残り 1 時間半となった 94 周時点での 2 台の差は 24 秒です。98 周目の終わりに #26Z がピットイン。タイヤ 2 本を交換しており、野中選手の 1 周遅れでコースに復帰します。112 周の終わりに野中選手がピットイン。山崎選手に交代し、給油とタイヤ 4 本交換を行ってピットアウトします。

山崎選手はトップでコースに復帰しますが、4.5 秒後方には同一周回に戻った #26Z が迫っており、ジェントルマンドライバーとプロドライバーの一騎打ちに注目が集まります。必死に逃げる山崎選手ですが、#26Z をおさえることができず、120 周目の終わりにポジションダウン。山崎選手は #26Z のペースについていくことができず、2 位でチェッカーを受けました。しかしレース後、#26Z にレギュレーション違反（ドライバー表示の切り替え不備）の裁定が下り、埼玉 Green Brave の優勝が確定。あと 5 秒遅れたら優勝を逃していたという、まさにチーム力でつかんだ勝利でした。なお、今回出場した 7 人の店舗メカニックは初戦ながら、高いチームワークと技術力を発揮。リザルトに貢献しました。第 2 戦は 5 月 24~26 日、富士スピードウェイで行われます。



決勝結果 (ST-Z クラス)

#52 埼玉 GB GR Supra GT4

(山崎 学 / 吉田 広樹 / 服部 尚貴 / 野中 誠太)

決勝: 1 位 (155 周、4 時間 01 分 19 秒 779)

予選: 2 位 (Q2A: 2 位、1 分 25 秒 530)



DRIVERS VOICE

山崎 学 選手

プッシュのサインが出ていたが、無線が繋がらない状態になり、後続が追いついてきているのか、それとも無線が通じないばかりを励ましてくれているのか、わかりませんでした。レースが終わった後にその意味がわかりました。クルマは終始安定していて、すごく調子が良かったです。こういう時に取りこぼさないのが埼玉 Green Brave のチーム力だと思います。服部さん、吉田さん、誠太くんがサポートしてくれて、本当にいいチームだと思います。応援ありがとうございます。

吉田広樹 選手

後続の 25 号車より単独のペースは良かったですが、引っ掛かることが多く、余力はありませんでした。最後の最後で、25 号車が離れていったので、それからは少し余裕を持って走れたと思います。タイヤ無交換でも誠太のタイムは良く、山崎さんがタイヤ交換する時間を築いてくれたので、そこはすごく心強かったですし、山崎さんもタイヤを交換した後、プロ相手に変わらないタイムで走ってくれました。みんながベストを尽くした結果、運を引き寄せてこういう結果になりました。

服部尚貴 選手

今回は 3 ステント、2 ピットがルールだったので、ピットで応援していました。26 号車がトランスポンダーの切り替えを忘れていたのでは？ と思うようになり、山崎さんの無線が繋がらなくなっていたのですが、サインボードでプッシュのサインを出しました。それがなかったら、この 1 位はなかったと思います。いろいろトラブルがあった中ではうまくいきましたし、今回は速さが足りませんでした。Z 勢有利の中で勝つたので、すごくラッキーでしたし、次につながったと思います。

野中誠太 選手

路面温度が今週末の中で一番高く、不安はありましたが、クルマのバランスはすごく良く、ドライビングもアジャストでき、最後まで走りきることができました。26 号車と 25 号車、2 台の Z 勢にはスピードがあり、ぼくらは正直、そこには負けていたと思いますが、タイヤ無交換とか戦略の幅っていうのはこちらの方が多いため、チームの強みをあらためて感じました。次の富士 24 時間は獲得ポイントが多いので、そちらに切り替え、昨年のように優勝したいと思います。

ST-Z クラス決勝結果

1 位 : 埼玉 GB GR Supra GT4 (トヨタ GR Supra)	155 周
2 位 : raffinee 日産メカニックチャレンジ Z NISMO GT4 (日産 Z GT4)	155 周
3 位 : TECHNO FIRST R8 LMS GT4 (アウディ R8 LMS GT4)	154 周
4 位 : BRP★FUNDINNO PORSCHE 718 GT4 RS (ポルシェ 718 ケイマン GT4 RS)	153 周
5 位 : EBI GROUP Cayman GT4 RS CS (ポルシェ 718 ケイマン GT4 RS)	153 周
6 位 : Hitotsuyama Mercedes-AMG GT4 (メルセデス AMG GT4)	152 周

出走 11 台 トップ 6 まで

ST-Z クラスポイントランキング

順位	車番	チーム	ポイント
1 位	52	埼玉 Green Brave	●
2 位	26	TEAM ZEROONE	●
3 位	34	TECHNO FIRST	●
4 位	19	Birth Racing Project【BRP】	●
5 位	22	Porsche Team EBI	●
6 位	21	Hitotsuyama Racing	●

上位 6 位まで

第 2 戦 5 月 24 日～26 日 富士スピードウェイ（静岡県小山町）

Green Brave PARTNERS



赤城車体工業株式会社



株式会社アース・コーポレーション



株式会社アルシェ



株式会社 FM NACK5



株式会社岡崎巧芸



株式会社カーグラス・JP



埼玉群スリーボンド株式会社



株式会社三和広告社



JU 埼玉オートオークション株式会社



株式会社西武ライオンズ



ティーズ・ワークス



株式会社デンソーソリューション



トヨタホーム東京株式会社



トヨタモビリティパーツ株式会社 埼玉支社



富士フイルムビジネスソリューションジャパン株式会社



有限会社 MY CARS



丸和工業株式会社



Mechanix Wear LLC



株式会社リビコー